

STAP 細胞事件

- ・ 理研：STAP 細胞事件
- ・ STAP 細胞事件 その2
- ・ STAP 細胞事件 その3
- ・ STAP 細胞事件 その後

STAP 細胞事件は、科学的にはもう決着している。

「もう放っておく」とういのが科学的に正しい姿勢。しかし、疑似科学等を取り扱っている本ウイキにおいてはそうもいかない。でも、やっぱり終わっています。

- ・ 米国でも「STAP 特許」は断念されたようです 栗原潔、11/24(金) 15:53、Y! ニュース
- ・ 日本でも STAP 特許出願に拒絶理由通知 栗原潔、3/20(月) 14:11、Y! ニュース
- ・ いまだ根強い「本当は STAP 細胞はあった！」説がやっぱりおかしいこれだけの理由
2016 年 09 月 24 日、ハーバー・ビジネス・オンライン

いまだにこんな記事書かなくちゃいけないってのは、ほんと時間と労力の無駄。ないものはない。いいかげん諦めなさい。

N スペで BPO 「人権侵害あり」

- ・ 小保方氏の N スペで BPO 「人権侵害あり」勧告 委員の主観で判断できるのか AERA dot. 2/21(火) 11:30 配信、Yahoo ニュース
- ・ BPO 「STAP 細胞報道に対する申立て」に関する委員会決定について 2017/2/12、warbler's diary
- ・ NHK スペシャル「小保方氏への人権侵害」 BPO 勧告 後藤洋平 2017 年 2 月 10 日 14 時 24 分、朝日新聞デジタル

放送倫理・番組向上機構 (BPO) の放送人権委員会は 10 日、STAP 細胞論文の研究不正問題を検証した NHK スペシャルについて、名誉毀損 (きそん) の人権侵害が認められるとする勧告を出した。論文を書いた小保方晴子・元理化学研究所研究員に対する取材にも「放送倫理上の問題があった」と指摘。NHK に対して再発防止に努めるよう求めている。

STAP 細胞擁護の「ジャーナリスト」

決着後も、しつこく STAP 細胞擁護の記事を書き続けている「ジャーナリスト」としては、上田眞実や大宅健一郎がいる。基本的に彼らの記事は主観に基づいて書かれているため、信頼できない。

- ・ 「ぶたやまかあさんの質問箱」における妨害行為 2016 年 06 月 04 日、結論ありき」の非専門家ブログが社会を混乱させている：世界三大不正 STAP 事件の正しい理解を社会に広める会
- ・ 【悪質なデマ】STAP 細胞はありません。STAP 現象と混同させて twitter 利用者を何度も騙す記者(?) 大宅健一郎 2016 年 5 月 14 日、Together

STAP 細胞の米国特許

- ・ 米誌で読む「STAP 細胞」真相 (上) 小保方さんは「プリンセス晴子」と呼ばれた 投稿

日：2016年07月07日12時16分JST、更新：2016年07月07日12時16分JST、大西睦子、ハフントンポスト

2014年1月30日、小保方晴子氏らによる「STAP細胞」の論文が科学雑誌『ネイチャー(Nature)』に発表されてから、間もなく2年半になります。その後の論文撤回、そして共著者の1人であるチャールズ・バカンティ氏のハーバード大学医学部関連医療機関「ブリガム・ウィメス病院(BWH)」麻酔科部長辞任後、米国では、ほとんどSTAP細胞にまつわるニュースを聞くことはなくなりました。

ところが最近、ハーバード大学が世界各国でSTAP細胞に関する特許申請を行っているというニュースが日本の一部メディアで流れました。これでSTAP細胞の存在が証明された、小保方氏の説明は正しかったのだ、という報じられ方でした。

しかし、私が調査したところ、確かに特許の申請は行われていますが、それはハーバード大学としてではなく、バカンティ氏が行ったものです。正確に言えば、まだ論文が発表される前、2013年5月25日にバカンティ氏と彼の兄弟、そしてもう1人の研究者(小保方氏ではありません)3名によって申請されています。そしてその申請の権利を、バカンティ氏は同年9月12日にBWHに譲渡しています。通常、大きな特許は、認められた場合には個人よりも大きな組織として所有していたほうがビジネスとして展開するうえで有利になるため、そうしたのだと考えられます。

ただし、米特許商標庁のウェブサイトを確認すると、この申請については譲渡の記録があるだけで何も動きがありません。形式上は現任も審査が続いているというところですが、担当者によると、1年から数年はかかるだろうということでした。しかも、バカンティ氏はすでにハーバードを去っていますし、論文も撤回されています。何より、世界中の著名な科学者が誰一人再現できていないものに特許が認められるなどあり得ないというのが、世界の科学界の認識です。なぜ日本でそのような報道がなされているのが不思議でなりません。

その後、以下のような情報がTwitterで流れている。

・ [18:33 - 2016年7月9日](#) EARL@ぶるあああああ、@DrMagicianEARL、Twitter

STAP細胞の特許が米国で出ていましたが、米国特許庁から拒絶理由書が出ています。まあ当然なんですが、拒絶理由はいろいろ書かれています。再現性とれてないのは大きいようです。↓ URL から特許番号 14/397080 で PDF が入手できます

<http://portal.uspto.gov/pair/PublicPair>

「結論ありき」の非専門家ブログが社会を混乱させている：世界三大不正 STAP 事件の正しい理解を社会に広める会

・ [「ぶたやまかあさんの質問箱」における妨害行為](#) 2016年06月04日

今年の2月28日のことになりますが、東京で

「ぶたやまかあさんの質問箱 #2 ~ STAP細胞ってなんだったんですか~ #3331 熱中教室」

という催しものが開かれました。

ところで第1部の途中からなのですが、最前列右方の席に陣取っていた女性と、前から4列目あたり左方の席に近い男性がスピーカーの話に口を挟むように何度も質問するようになり、その内容は主として論文不正における若山先生の責任云々といったものだったと記憶します。

司会進行のぶたやまかあさんという人が、

「質問タイムはあとの方で設けるので途中で質問するのはもうやめてほしい」

という趣旨のことを言わないといけないうらい、進行に支障が出ていました。

女性は容姿や質問内容から上田眞実という自称ジャーナリストだろうとすぐに察しがつきました。禿頭は後に理研の記者会見のビデオを確認し、どこかの出版社の社員らしいことが分かりました。

そして第2部の粥川氏のコーナーになるとまたもや二人は質問を挟むようになり、途中の休憩時にも上田氏と禿頭が演者席の粥川氏に詰め寄るようにして抗議していました。

その内容は私が聴き取れる限り第1部の質問とあまり変わらず、若山先生の責任云々かぬんか、あるいは小保方さんが故意に捏造したということを一方的に臭わせるような話の進んだという抗議で、さかんに粥川氏に公正さがないと言い募っているようでした。

再開後、粥川氏が論文不正との絡みでギフトオーサーシップの問題を論じ始めたところで上田氏が再び、

「なぜ笹井さんのことばかり責めて若山さんの責任について話さないのか、」
「不公正だ」

というような質問とも抗議ともつかない言いがかりをつけはじめました。

しばらく押し問答が続いたのですが、聴衆の中からある人が手を挙げ、

「みな忙しい中時間を割き、金を払って話を聴きにきている、テーマと関係ない話で時間を取らないでほしい」

という趣旨の発言をし、会場のあちこちから拍手が挙がってやっと上田氏の抗議が止まりました。

その後、粥川氏が話を再開するとすぐ、最前列にいた上田氏は手荒に荷物を取りまとめると憤然とした様子で出て行きました。部屋の出口へ向かう途中で空いた席のパイプ椅子を脚にひっかけながらだったので、まさにカタカタと音を立てての退場でした。

上田氏の行為はもしあのまま続いていたら威力業務妨害に該当してもおかしくなかったでしょう(禿頭は第2部の休憩後には姿を消していましたが)。科学的な事実に基づいてディスカッションに参加するという態度はまったく覗えず、ひたすら自説の主張を繰り返すのみだったのでした。

榎木英介の記事一覧 - 個人 - Yahoo! ニュース

・ [小保方さん、今度は正直にいきましょう](#) 2016年4月10日15時51分配信

そして、繰り返しになるが、やはり、「生命科学の研究の基礎的な知識がない人が研究内容にまで踏み込む」ことには反対する。せめて、Molecular Biology of the Cell (細胞の分子生物学)か、Essential cell biology (Essential 細胞生物学)を読んでから語ってほしい。

こういうことを言うと、私が普段科学技術の市民参加を訴えていることと矛盾するではないか、と言われそうだが、科学技術を社会や政治の文脈も含め考えることと、研究の内容にまで不確かな知識であれこれ言っことは明確に区別すべきだと思う。

私はさんざんSTAP細胞事件に厳しい言葉を向けてきたが、これはあくまでこの事件を生み出した構造に対してだ。小保方さんへの不当なバッシングには心を痛めてきたし、小保方さんの人生の再出発を応援している(研究者以外の)。だからこそ、これからは誠実かつ柔軟な姿勢で生きてほしいと思っている。

・ [小保方氏がホームページで伝えたかったこととは?](#) 2016年4月2日8時25分配信

著書「あの日」で、小保方さん信じます、という人が多数出ている。表現の自由だから、本の出版やこうした感想を持つことをとやかくいうつもりはない。ただ、STAP細胞ありなしは、信仰では解決しない。

科学コミュニティで研究成果を認められるということは、簡単なことではない。信じる、信じない、立場まで持っていくなどは意味がない。根拠を持って証明するしかない。そして今のところ、それはできていない。

小保方さん自身それを分かっているから、こうしたページを公表したわけだ。

だから、もう科学コミュニティ以外の人には、あれこれ言わず放っておくほうがよいのではないが、もちろん研究不正に関する部分には厳しく対処する必要があるが、研究の知識がたいしてないのに、陰謀論を唱えたり、どこぞの研究者が STAP 細胞を証明したとかなんとかというのは、まったく意味がないし、小保方さんを応援することにすらならない。